生活協同組合 消費者住宅センターだより

発　行　人　生活協同組合消費者住宅センター
編集責任者　理事長　久　保　峰　雄
〒164-0011 東京都中野区中央5-41-18 東京都生協連会館
TEL 03-5340-0620（代表）FAX 03-5340-0621
URL http://www.j-seikyo.com/ E-mail info@j-seikyo.com

おもな記事

●第9回森林体験学習会
●現場訪問１（柳田邸）
●住まいと和紙　～その６～
●現場訪問２（杉山邸）
●借地借家問題セミナー
●創立30周年記念キャンペーン

人に、地域に、地球に優しい森の恵み
第９回森林体験学習会ｉｎ奥多摩・檜原

８月６日(土)～７日(日)の二日間、今年は天候に恵まれて、複層林の見学や間伐の実演など、予定のプログラムを実施することができました。学習会は木造住宅では乳がんによる死亡率が低いことや鉄・アルミニウムに比べて木材が加熱に強いことなど、木のもつ特長が紹介された一方、山の荒廃が進む中、多摩の森林を再構築していくには、都内の５３０万世帯の方が30年に１回改修や新築時に５坪分の木材の使用してもらえればという話などを聞きました。その後、実際に山に入って実態を見学しました。参加者は「森林の役割や東京の森林材と森林を手入れしている人たちの現状がよくわかって良かった」、「間伐や森林組合の取り組みなどを学習できてとても勉強になった」、「森林の中での生活の豊かさと大変さがよくわかりました」、「人間も自然の子と感得できた学習会でした。自然に響き合う生活や社会を子供たちにしっかりと手渡していきたいと思いました」という感想が寄せられたように、木と森林のもつ役割や森を守ることの大切さと大変さを目で見て、手で触れて、肌で感じることができました。

現場訪問

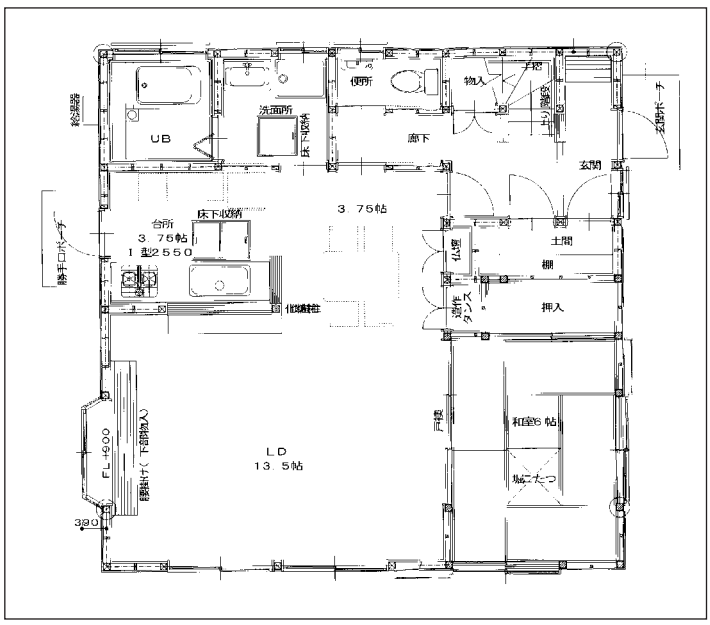
柳田邸

（東京都小平市）

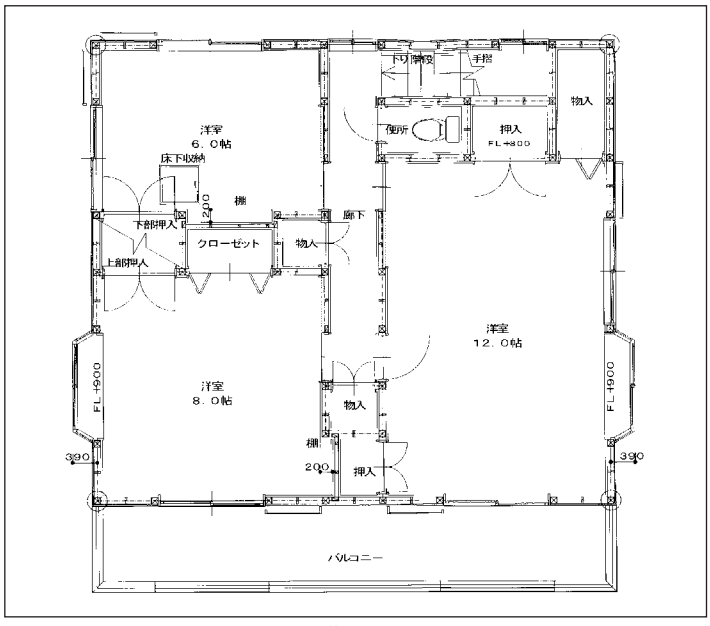
今までにうさぎ小屋と呼ばれるような住宅を二回建てました。その後公務員宿舎、民間アパート、都営住宅と移り住みました。

終の棲家となるはずの都営住宅は建て替えで、前年夫を亡くした私に与えられたのは１ＤＫでした。一人暮らしは一部屋で良いという東京都の住宅政策の貧しさから、遠方に住んでいる一人息子も泊める事の出来ない狭さに、私の終の棲家というより息子一家がいつでもゆっくり泊まれるようにとの思いから今回新築にふみきりました。

新築にあたり、息子が転勤先から戻っても通勤に便利なこと、そして息子のつれあいの実家にも便利なことなどを考え、小平（当地）の地を選びました。



１階平面図



２階平面図

建築業者も内定し、図面も出来かかった段階で息子から数社から見積りを取るようにとの要望でした。

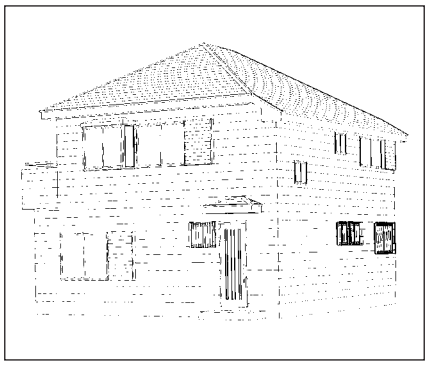
私のライフワークである救援活動での先輩である吉田桂子さんが、住宅生協の監事であることを思い出し相談したところ、生協職員は未熟な点もあるが、しっかりした理念を持った理事会があること、けっしてイ ンチキはしない、その点で信頼していいのではないかと、久保理事長を紹介してくれました。

設計の段階で息子の意向を取り入れるのに困難を極めました。何回も設計図を作ってもらい、担当者にはご面倒をおかけしましたが、久保理事長が休日を返上して作ってくださった設計図で何とか納得のいくものが出来ました。

建築は本当にスムーズに行き、携ってくださいました業者の方々には心より感謝しております。

完成してみて、素人の私には図面上では想像できず、窓がもう少し大きかったら良かったのにとか、玄関の扉に郵便入れが欲しかった、押し入れ箪笥の入らない押し入れなど、残念な点もいくつかありましたが、住宅本来の欠陥ではないので、ヨシとしようと思っております。担当の樋口部長にはいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

（柳田）


外観パース

1F LDK

1F LDK

外観パース

和室押し入れ

玄関

30周年記念キャンペーン

100%自然原料塗料 AURO の製品を取り扱っています。

木部塗装におすすめ！

外壁塗装の目安価格

通常価格 504,000円～[税込]（建坪25坪程度、モルタル壁 セラミックシリコン塗料）が 10% OFF 453,600円～に！

※施工条件等により金額が異なる場合があります。

4大特典

①塗装工事費の10%を見積り還元！

②「外装調査診断報告書」をさし上げます！

③雨樋・網戸の清掃を無料で行います！
（外壁塗装する方対象）

④エアコン配管ビニール巻補修を無料で行います！
（外壁塗装する方対象2ヶ所まで）

住まいと和紙

その6　新潟県小国町・阿賀町（レポート　久保峰雄）

夏の暑い日、新潟県の和紙産地ニヶ所を訪問致しました。雪国での和紙産地見学は冬期に見学するとその特徴がしっかり解るのですが、雪国での車の運転が不馴れのため少々腰が引けた結果の時期選定となりました。一ヶ所は磐越自動車道の津川ＩＣから二〇～二五分の旧上川村小出地区の小出和紙工房の伊藤一雄さん、もう一ヶ所は関越自動車道小千谷ＩＣから二〇分の旧小國町に在る(有)小国和紙生産組合の今井宏・千尋さん夫婦を訪ねました。

今井千尋、江口直子さん

小国和紙

旧小国町での紙漉きは江戸時代初期頃まで遡ることができます。天和ニ年（一六八〇年）小国町山野田地区に二〇戸程度が農閉期の副業として和漉きをしていたようです。越後の小国紙の最も正統な漉手の人は江口ミンと云われていました。

昭和六〇年に高齢を理由に山間の山野田を下りて息子の働く柏崎市に移住し、生まれ育った小国を離れて八年後の平成五年に八六歳で亡くなり、事実上小国町での紙漉きは一時期途絶えたかに見えましたが、そこに一人の人物が現れ小国和紙の紙漉き工房を作ってしまった人が現れました。

その方の名は片桐三郎さんで現在では娘の今井千尋さん夫婦と小国和紙を伝承しています。

千尋さんの話ですと父親の片桐さんは元々、工務店経営者で大工職が本職で豪雪地帯のこの地方で、「冬出稼ぎに行かなくとも良い仕事がないだろうか」と考え、家族の猛反対にあいながら紙漉場を先に建ててしまったそうです。片桐さんは徒に猪突猛進した訳ではなさそうです。昭和五九年冬期雇用促進事業の一環として補助金を獲得して工房を建築し、技術を持っている人々を集り小国和紙生産組合を立ち上げる等緻密計画がそこに在ります。

さすが工務店経営者の経営感覚が立派に生かされて組合が設立されています。そうであるからこそ和紙業界の浮沈みが激しい中にあって現在の地位を築いたものと思われます。

小国和紙の特徴

旧小国町は豪雪地帯で冬の日照時間は極めて少ない地方です。この気象現象が育てた和紙の製法の一形態であると云えます。豪雪地帯では漉き上げた和紙を冬期に干すことは出来ませんので、漉き上げた紙を紙床に重ねたまま雪に埋め、春先迄保存します。雪の重さで圧縮され、腰の強い紙に変化します。雪解けの季節に掘出し一枚づつ干し板に貼り天日と雪の反射で乾燥した製法が小国和紙の特徴です。

紙漉場にて

しかし現在ではどこの産地でもそうであるように、天日干しは乾燥機に取って変り、通年紙干しが可能となっています。また、雪の重さでの圧縮もジャッキを使っての圧縮に変り年間通じて小国和紙は漉かれるようになっています。

工房に入ってすぐに感じたのは、他の産地と比較して漉舟が小さい事です。全号でレポートした山梨県の画仙紙の漉舟の大きさの半分ぐらいでその理由を今井千尋さんにお聞きすると二つの地方の気候風土と関係が在る事が解りました。

積雪が三メートルを超える豪雪地帯の小国町では、冬期男衆は出稼ぎに県外に出かけ、残るのは女子供しか残っていない為、家に残った女子の体力に合わせて小国版という小さな簀で紙を漉く事になったと、その由来を説明してくれました。

父親の片桐三郎さんが小国和紙生産組合を立ち上げた理由もすんなり理解できました。伝統的な小国和紙の紙漉きは漉き簀を二～三枚用意して漉き上げたものを桁からはずして、水きり用の板に乗せ

水を切ります。その間に次の紙を漉いてまた水切り板に乗せます。最初に漉いた紙を紙床に移し、その後又簀を使うというローテーションの紙漉技法が最大の特徴の一つでした。しかし現在ではその紙漉技法を見る事が出来るのは稀です。

和紙を壁材料に使用

工房から四～五分の所に両親と今井夫婦と子供が暮らす家が在ります。

片桐さんは本職が工務店ですから自宅は立派な軸組工法の木造の建物です。旧小国町は中越地震の震源に近い事もあり、いたる所に爪跡が残っていました。

家屋内を案内してくれた千尋さんは壁等を指し僅かに残る亀裂も地震の後遺症だと云います。壁装材に和紙を利用して袋貼りした所は伸び縮みがあって亀裂の発生がなかったが、ビニールの壁装材(ビニールクロス)は完全に下地と共に稲光りが走ったような亀裂がどの家にも発生したそうです。大手壁材メーカーも本物(自然)素材と銘打って黄麻、ザイル麻、絹、和布、和紙を売り出していますが、多く一般家庭で利用されているのはビニールクロス(クロスは正しくなくシート)が普及しています。それゆえ中越地震での被害も目立っていたのかも知れません。

自分が漉いた小国和紙を藍染め柿渋で染めたものが自宅の天井や壁面にアクセントとして使われていました。化学塗料で染めた和紙は色が綺麗に出ますが、直に色褪せてしまいます。草木染めも色の定着が今一つで、結局藍染めと柿渋が経験的に考えて一番良い感じがすると話ます。玄関の吹抜けの天井に藍染めの和紙が貼ってありましたが、とても良くマッチしており、このインテリアデザインは父親の片桐さんか娘の今井千尋さんのデザインか分りませんが良い空間を演出していました。

玄関の和紙照明と藍染の天井紙

小国和紙の伝承と経営

小国和紙生産組合には十人の若い人が働いており、三〇代前半の今井夫婦がその中心となっています。

夫の今井宏明さんと夫人の千尋さんによって継承問題はスムーズにクリアされているように見えました。とても民主的な家庭のようで筆者が訪問した時は、夫の宏明さんが子守番ということでお会いできませんでした。

電話で取材のお願いをした際「道路が悪いので注意してお越し下さい」というお言葉を頂いたのですが、迂闊にも地震の事をすっかり忘れていました。現地に赴くとあちこちの道路で工事が行われており山肌は至る所で地滑りの跡がありました。

現地では災害復旧も酣で工務店の方も忙しく、片桐さんとお会いする事が出来なかったのが心残りです。

(有) 小国和紙生産組合
住所 新潟県長岡市小国町大字小栗山一四五
電話 〇二五八―九五―三〇一六

小出和紙

阿賀野川の上流で常浪川が分岐しているところを旧上川村に入って二〇分近く車を走らせた所の左側に小出地区があります。現在この場所で小出和紙を漉いている方は二人で小出和紙工房の伊藤一雄さんと小出和紙工房かかしの渡辺敬三さんです。渡辺さんは病気療養中と言う事で、伊藤さん宅の訪問となりました。

小出和紙はかすかな萌黄、茶色を帯びた半透明が特徴です。

伊藤さんと書画

昔は近郷近在の農家で障子紙の需要等が沢山ありましたが、建築様式の変化で使わなくなり、紙漉きは年間の限られた期間しか漉いていないと現状を伊藤さんは語ります。

和紙で業いを成功させることは難しく両工房とも小出和紙を伝承する人はいません。息子さん達は村を出て他の職業に就いています。「寂しくないですか」との問いに「仕方ないです、時代の変化の中で紙漉きでは食っていけませんから」と返事が返ってきました。二つの工房も共に八〇歳を超えている高齢者で今後の小出和紙の行く末が心配です。

伊藤さんは自分の漉いた小出紙を使い夜中の静寂を利用して仏画等を描いていおり、工房の二階の展示場に所狭しと飾られてあります。

何時も午後の三時～四時に就寝し、夜中一時から二時に起床し書画の作品作りに精を出すと云う事でお邪魔にならぬよう昼近くにお暇しました。

連絡先 新潟県東蒲原郡阿賀町小出二六八九
電話 〇二五四九―五―二九二〇

現場訪問 杉山邸（東京都杉並区）

近くに住む孫たちが元気いっぱい育っているのをうれしく思っておりました。マンションの二階に住んでいましたが、特に下の階の方には大変迷惑をかけていたと思います。ある時、パワーあふれる孫たちが部屋の中をぬき足さし足で歩いているのを見て思案しておりました。そんな状況のなか息子夫婦から、私ども老夫婦が住んでいる住宅を二世帯にしてくれないかと申し出があり、二世帯での暮らし方を友人などのアドバイスを参考に話し合いを重ね、二世帯に増改築することに決め、さてどこに施工を依頼しようかと考えました。

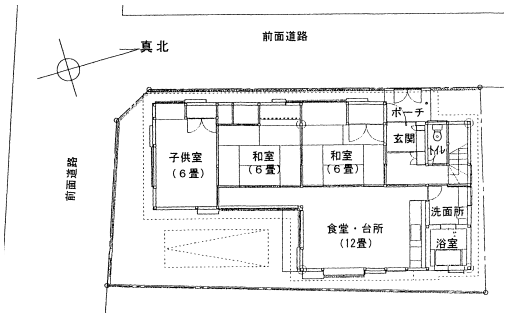
私どもの家は築二十年の木造在来工法で、四、五年前から白蟻のこと、床下の状態、地震対策などを住宅生協さんにお世話になっていました。小さな工事でも対応していただき、何よりも生活者の立場で対応していただき、私どもは信頼感を持っていました。増築が伴うので大掛かりになりましたが、何よりもバリアフリー、シックハウス対策を第一に考え、柱一本も生かせるものは生かすという、こまかな配慮で快適な家が出来上がり、今日も元気に飛び跳ねる孫たちに、私どもも大いに満足しております。（杉山）

1階　（バリアフリー対応・EV付）

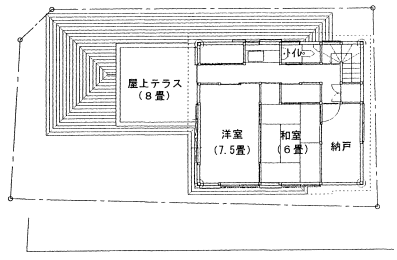
玄関ポーチ外観

2階　居間・食堂

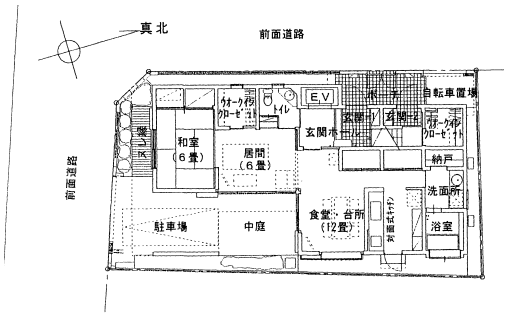
2階　グレーチングデッキ（室内と一体化している）



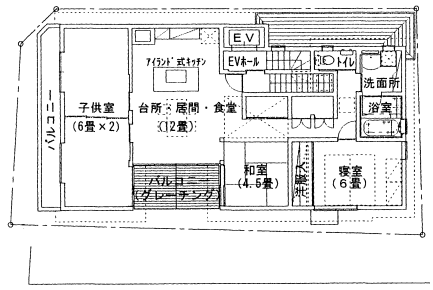
■改装前　配置図・1階平面図



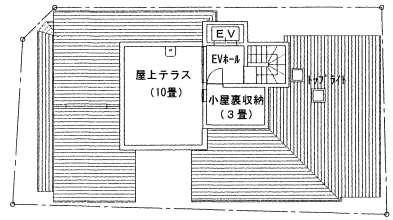
■改装前　2階平面図



■改装後　配置図・１階平面図



■改装後　２階平面図



■改装後　屋上階平面図

借地借家問題セミナー

8月28日(日)14時～東京都生協連会館3階にて借地借家問題セミナーを開催しました。借地権の正しい理解と共に、借地の賃料・更新問題、建替えなどの実践事例を交えて、具体的に借地問題を考えたセミナーでした。100組130名の参加者があり、セミナー後の個別相談には40組の相談がありました。講師には、東京借地借家人組合連合会の専務理事で当住宅生協の理事でもある細谷紫朗氏が講演を行いました。講演後の質疑応答では、『借地権と底地の等価交換とは』や『更地価格とは』などさまざまな質問が寄せられました。また、セミナー後の個別相談には40組の相談があり、東借連の相談員の方と当住宅生協の職員と共に個別の問題について少ない時間で丁寧に対応しました。今回のセミナーの講演についてのアンケートから、『参考になった』『ケーススタディを取り入れたお話を』との希望も寄せられました。多くの方々からの評価を頂き、今後も『借地問題事例の解説セミナー』や『借地問題を勉強したい』と要望や希望など多数寄せられました。

＊次回の借地借家問題セミナーは、
10月29日(土)13時30分～
JR国分寺駅南口 国分寺市立いずみホール。
講師は東京借地借家人連合会専務理事 細谷紫朗氏。セミナー終了後、個別相談。
1000円(小冊子代含む)。参加希望の方は担当小野まで連絡へ。

＊大家・地主さんセミナーも計画しています。
12月10日(土)13時30分～
東京都生協連会館3階ホール
講師には当生協の理事であり、前日弁連事務局次長の藤井篤弁護士を予定しています。

住所変更の届出を

センターだよりは年3回から4回発行しています。情報伝達や組合員の交流という媒体としての役割に留まらず、郵送することによって組合員さんの所在確認の意味も含まれています。住所変更がありました遅滞なく生協の事務局へご連絡をください。

～高齢者・障害者支援リフォーム～

介護保険住宅改修・自治体自立支援住宅改修給付制度をご存じですか？…

高齢者が自宅で生活を続けられるように必要部分を改修する工事の費用を給付してもらう制度です。

給付対象工事及び給付基準金額の一例

- 介護保険改修・予防給付に
  - ●手すりの設置 ●段差の解消
  - ●床の滑り防止 ●引き戸扉への取替え
  - ●洋式便器への取替えなど
  ……200,000円
- 埋込み浴槽への取替えに……379,000円
- 流し・洗面台(高さ調整)の取替え 156,000円
- 便器の洋式化に……106,000円

※介護認定審査、事前申請が必要。金額・項目は自治体により違い有り。自己負担分有り。

※浴槽またぎ高さを低く
※入口床段差を解消
※手摺りの取付
※給湯器の交換

畳からフローリングにして車椅子の生活にも対応

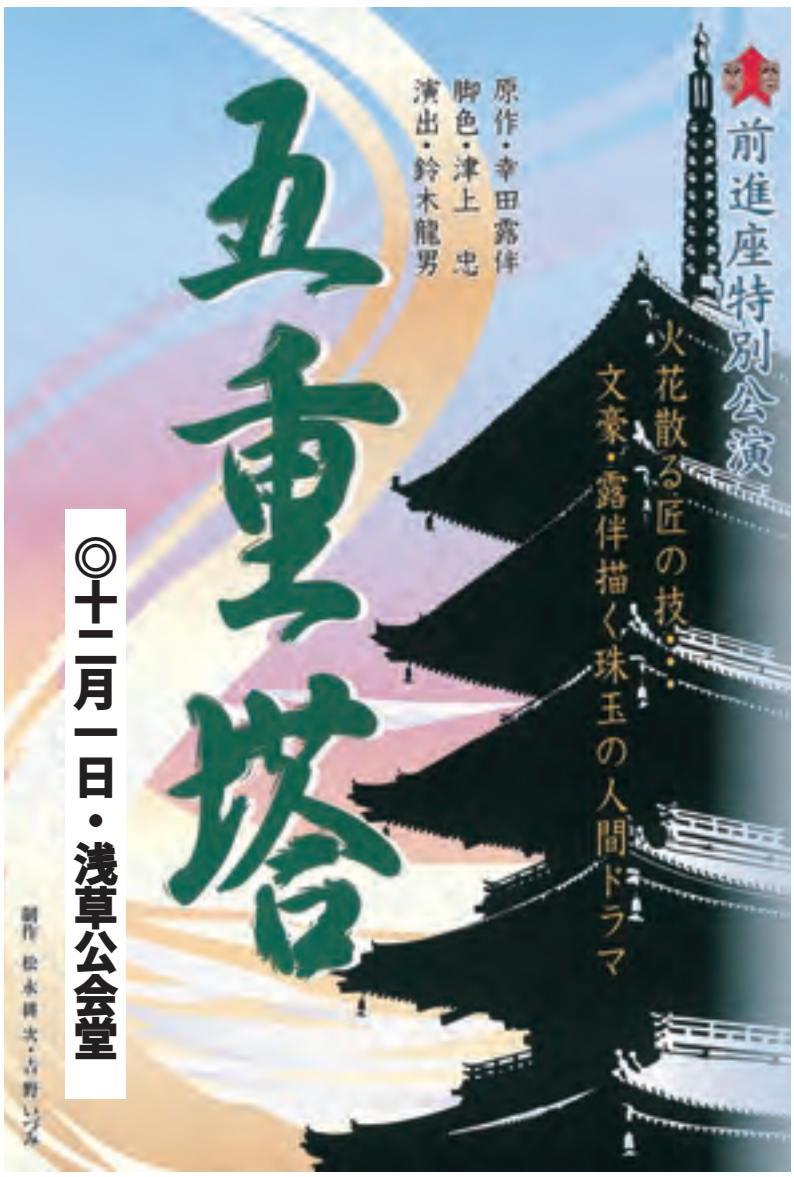
〈申請のためのご相談は住宅生協へ〉

無料ご招待、先着９００名様
創立30周年記念
記念式典と前進座「五重塔」観劇会

12月1日に浅草公会堂にて30周年記念式典と前進座「五重塔」観劇会を開催します。この劇は幸田露伴原作の五重塔を建立した宮大工の話しです。職人としての意地と生き様、友情と信頼を描いた舞台は住宅生協の30年の節目に相応しい演題です。

当日は住宅生協で一幕を貸し切ります。先着順で９００名様（一組合員2名様まで・幼児はご遠慮ください。）を無料（市販ではA席が７００円）ご招待させていただきます（全席指定）。お申し込みは同封の申込用ハガキに必要事項をご記入の上、ご投函ください。当選者はチケットの発送をもって替えさせていただきます。チケットは11月に入ってから発送いたします。

尚、席は生協で順番に割当させていただきますので、ご了解ください。また、観劇のみの入場はご遠慮いただき、式典からのご列席をよろしくお願いいたします。



日　時　２００５年12月1日（木）
受　付　12時00分
式　典　12時45分
観劇会開演　13時30分（～16時30分予定）
会　場　浅草公会堂
お問い合わせ先
担当：大関・横山
TEL03－5340－0620

「五重塔」あらすじ

一生に一度あるかないかという五重塔建立の大仕事。

江戸で名うての棟梁、川越の源太（藤川矢之輔）が請け負う事になっていたこの仕事を「ぜひとも自分に」と朗円上人（中村鴈蔵）に願い出たのは渡り大工の十兵衛（嵐圭史）。

源太の女房お吉（小林祥子）も子方の大工清吉（中嶋宏幸）も、十兵衛が親方を裏切ったと不満を抑えきれない。十兵衛の女房お浪（浜名実貴）には亭主の思いが痛いほどわかるが、これまで源太やお吉に受けてきた恩を思うと動揺を隠せない。

考えた末に源太が下した決断は…、そして十兵衛は…。

編集後記

この号の編集を進めている時、衆議員の総選挙が実施され、自民党の圧勝という結果となりました。小泉さんは「改革」「改革」と連呼すれど、中味がさっぱり判らなかった人が多かったと思います。「改革」という抽象語には反対者はいません。問題は中味により、判断する時間が持てない選挙でした。外交、財政、年金、少子化と問題が山積しているのに郵政一本という単純な思考で、日本が良くなってくれるか心配です。住宅生協関連でも、リフォーム事業者のモラルハザードは目を覆うばかりです。悪質住宅リフォーム問題で「センターだより」臨時号を発行し、生協の見解、要求を明らかにしました。この機関誌は東京都内の各消費者センターにも送付し、生協として組合員、消費者の立場にたって、この問題の根絶を呼びかけました。

問題の重大性から各省庁も動き出し、経済産業省は特定商取引法の執行・強化を主眼に、同法通達を改正・施行し、内閣府は高齢者や介護ヘルパーなどを対象にした「消費者問題出前講座」で、リフォーム問題を扱っていく方針を打ち出しました。国土交通省は自治体へリフォーム相談窓口を設置するように呼びかけ、さらに工事額が５００万円未満のリフォームを行う業者は、建設業法では無許可で業務ができ、被害もここに集中していることから、この層の業者に対する適切な規制・指導が求められ、今後の検討を想定しています。

リフォーム業界も業界団体として相談窓口の開設をするなど、信頼回復に向け動き出しました。生協は訪問販売の手法ではなく、チラシなど宣伝媒体を見た消費者から申込を受け付ける反響営業で事業展開をしています。白蟻防除や耐震診断など悪質住宅リフォーム問題と同様の工事を行っており、少なからず今回の影響で申込減少という被害を受けました。（K）